

## 67. 「子育てのホルモン」～オキシトシン～

2016.5.1 遠藤清賢

発見された人骨の中で最も古い類人猿は300万年以上前だそうです。現代人に進化した新人類のクロマニヨン人の誕生から3万年以上も経つそうです。石器時代の人類から現代社会人がどのようにその精神文化を発達させてきたのかを考えてみると、狩猟社会から、定住をはじめた農耕社会、産業革命による工業社会に変化し、その変化の中で私たちは子育てという分野に於いてどのような進化を遂げてきたのでしょうか。はたして子育て文化は進歩しているのでしょうか。今の社会を見ると逆に退化しているように思えます。



たわしたちは様々な抗争の末に民主主義社会という社会制度を生み出しました。狩猟生活が始まった社会は如何に食料を獲得するのが最も重要な生きるための働きでした。その食料を安定的に大量に獲得出来る者が社会の頂点に立つことができました。人間の社会に於いて家族という生活単位が確立し始めた頃から、家族に子どもが誕生し、その子たちの成長を支えながら、子どもが母親を慕う心、母親がわが子を思う心が、人間の精神の中に、愛情という心が進化し確立されたと思います。争うことが、いかに無駄で、空しく、悲しい物であるかを母親たちは体験してきました。この母親たちの体験が民主主義の根本になっていると私は想像しています。民主主義の根底には母親の深い愛情が基礎になっていると思います。さらに、この類人猿から現代人に至る長い進化の過程に於いて子どもを育てるために必要な体の仕組みも確立されました。人間は子どもを育てるために**オキシトシン**というホルモンを体の中に造り出したのです。これは**幸せホルモン**ともいわれます。このホルモンは子どもとの関わりを行うことによって心の安定を促進し、子どもの成長を促し、母親の出産で傷んだ体を補修し、そして、男たちの闘争本能を抑制する働きを促進するホルモンなのです。このホルモンは家族がお互いに協力し、喜びの生活を過ごすことによって分泌されるのだそうです。母親、父親、そして子どもが一体で生活を共にし、一家団欒とスキンシップを行うことによって愛情という尊い働きが促進されるのです。

現代社会は人間が長い間育んできたこの進化の過程に逆行するような生活環境になってしまいました。母親はひとり孤独のうちに子どもと関わっているのです。子どもを育てることに不安を抱き、孤独の中で、迷走する生活を送ってしまっているのです。人間が獲得してきた子育ての尊い能力を失いかけているのです。これは母親や父親だけの責任ではありません。これは私たちすべての人間の課題なのです。私たちすべてが幼い子どもを育てている母親を支える社会を創らなければなりません。

### 筍団子(4人分)

#### 《材料》

筍の水煮 200g、とりひき肉 100g、じゃが芋でん粉 大さじ1、さとう 小さじ1、醤油 小さじ1、油揚げ 小さじ1、揚げ油 適量

#### 《作り方》

1. ゆで筍は、フードプロセッサー等でみじん切りにする。
2. ボウルに筍、鶏挽肉、片栗粉、砂糖、醤油をいれ、良くかき混ぜる。
3. 食べやすい大きさの団子に丸め、170℃位の油で揚げて完成。



奥州市江刺区男石1丁目3-5 社会福祉法人 江刺保育園 子育て支援事業

電話 0197-35-1522 ファックス 0197-35-1741

子育て広場「友遊広場」専用電話 090-7327-9686

Eメール [esahoiku@pup.waiwai-net.ne.jp](mailto:esahoiku@pup.waiwai-net.ne.jp) ホームページ <http://www.esashihoikuen.com/>